

(仮訳)

第24回日中韓三カ国環境大臣会合 共同コミュニケ

2023年11月3、4日 於：日本・愛知県名古屋市

前文

1. 伊藤信太郎日本国環境大臣、韓和真大韓民国環境部長官及び黄潤秋中華人民共和国生態環境部長は、2023年11月3、4日に愛知県名古屋市にて、第24回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM24）を開催した。

日中韓における環境政策の最近の進捗

2. 三大臣は、TEMM23以降の各国の環境政策における最近の進捗を共有した。伊藤大臣は「日本の主要な環境政策のレビューと展望」、韓長官は「カーボンニュートラルとグリーン成長に向けた韓国の環境政策」、黄部長は「開発基調色としてのグリーンの強化と、人と自然が調和した共生の推進」を発表した。三大臣は、こうした三カ国の努力が北東アジアにおける持続可能な開発の達成、また国内、地域及び世界規模の環境問題の解決へ貢献するという認識を共有した。
3. TEMM24本会合と並行して、日中韓環境ユースフォーラムが開催され、三カ国の若者が参加、討議の結果が三大臣に報告された。三大臣は、「人と自然との共生に向けて ～未来の教育に変革を起こす～」について討議した日中韓環境ユースフォーラムの成果を歓迎した。
4. 三大臣は、三カ国間の環境協力への貢献に対して日中韓環境協力功労者表彰を受賞した日本の清水厚氏、韓国のムン・サロミ氏、中国のリウ・ズンウェン氏を祝福し、顕彰した。

三カ国共同行動計画（2021-2025）の実施に関連する環境協力の最近の進展

5. 三大臣は、2021年12月に採択された環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画（2021年～2025年）（TJAP 2021-2025）の実施における進展について

レビューした。三大臣は、TJAP2021-2025の8つの優先分野の下での協力プロジェクトの進展に満足の意を表するとともに、三カ国の協力を引き続き推進していく決意を示した。

6. 三大臣は、2023年9月に中国が開催した第10回大気汚染に関する日中韓三カ国政策対話（TPDAP）において、三カ国の政策担当者や専門家によるPM2.5やオゾン等の大気汚染物質の防止と管理に関する政策及び技術の継続的な情報共有を歓迎した。三大臣はTPDAPの第2期日中韓アクションプラン（2021年～2025年）の実施に沿ったTPDAP及びその他の共同活動の進展を評価した。三大臣はまた、TPDAPにおいて、光化学オキシダントなど、三カ国の共通課題に関する情報共有と知識や経験の交換の更なる推進について議論したことを歓迎した。三大臣は、TPDAPを通じた協力の努力が近年の三カ国の大気環境改善傾向に大きく貢献しているという認識を共有した。
7. 三大臣は、黄砂共同研究のワーキンググループI・IIの中期行動計画（2020年～2024年）の実施における黄砂ワーキンググループ（WG）の進展を歓迎し、2023年12月に中国が開催する第16回黄砂WGI及び2023年11月に日本が開催する第16回黄砂WGIIについて留意した。
8. 三大臣は、2022年12月に韓国が開催した3R／循環経済／ゼロ・ウェイスト都市に関する第15回日中韓三カ国セミナーの成果を歓迎した。本セミナーでは、プラスチック廃棄物管理や循環経済に関する政策、実践、進捗状況について共有、議論された。三大臣は、2023年12月に中国が開催する第16回セミナーについて留意した。
9. 三大臣は、2023年2月に開催された第18回アジア水環境パートナーシップ（WEPA）年次会合について留意した。年次会合では、産業排水の管理の現状と課題について議論が行われた。

10. 三大臣は、2023年11月に釜山で韓国温室効果ガスインベントリ研究センターが開催した第8回日中韓カーボンプライシングフォーラム、2023年10月に地球環境戦略研究機関（IGES）、韓国環境政策評価研究院（KEI）、国家気候変動戦略研究・国際協力センター（NCSC）が開催した日中韓脱炭素都市フォーラムを歓迎した。三大臣は、2023年7月に中国で開催されたASEAN+3低炭素協力パートナーシップ推進セミナーについて留意した。三大臣は、汚染管理と温室効果ガス排出削減の間の相乗効果を含む気候変動分野における協力を推進していく意思を表明した。
11. 三大臣は、2023年7月に中国が主催した第9回日中韓生物多様性政策対話（TPDBD）の成果を歓迎した。TPDBDでは、昆明・モンリオール生物多様性枠組（KMGBF）の実施の進捗状況や、そのモニタリング枠組と計画、報告及びレビューのメカニズム、遺伝資源に関するデジタル配列情報、侵略的外来種、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム総会第10回会合（IPBES-10）について議論した。
12. 三大臣は、2023年11月に韓国が開催する第17回日中韓化学物質管理政策対話（TPDCM）及び化学物質管理専門家会合（TESCM）において、TESCMでの共同研究の進展への期待や三カ国間での化学物質管理に関する最新の規制や優良事例の情報交換について留意した。
13. 三大臣は、2023年2月に中国が「排出集約型産業とグリーンサステナブルリカバリーにおける汚染削減と炭素削減の相乗的取組」をテーマとして開催した第7回日中韓環境ビジネス円卓会議（TREB7）の結果を歓迎した。三大臣は、TREB7が本テーマに沿って各国の状況や取組について議論したことを認識した。三大臣はまた、2023年9月に韓国によって開催された日中韓エコラベル実務者会合の結果を歓迎した。三大臣は、「木材・プラスチック再生複合材」の共通基準の開発における3カ国による進展を認識した。
14. 三大臣は、2023年11月に韓国が開催する第24回日中韓環境教育ネットワーク

ク（TEEN）シンポジウムについて留意し、環境教育、市民啓発、環境保護の推進における若者の参加を含む国民参加の重要性を認識した。三大臣は、中国の主導で2023年2月にまとめられた「日中韓の自然に基づく環境教育に関する事例研究報告書」と名付けられた日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）共同プロジェクトの成果を歓迎した。三大臣は、2023年12月に中国が開催する第21回日中韓三カ国合同環境研修について留意した。

15. 三大臣は、2023年国連SDGサミットや2023年国連気候野心サミット、G20環境・気候大臣会合を含む、主要な地域的及び世界的な環境会議において三カ国が積極的に参加し、気候変動への対処及び持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた多国間協力の強化に関する有意義な議論がなされたことについて留意した。
16. 三大臣は、2023年2月に日中韓協力事務局（TCS）によって開催された日中韓のカーボンニュートラル目標に関する第2回フォーラム、2023年8月にTCSによって開催された日中韓三カ国教員交流プログラム（TTEP）の成果について歓迎した。同フォーラム及びTTEPでは、三カ国間の環境協力と教育者及び一般大衆への教育を推進した。三大臣は、TEMMの枠組みにおけるTCSの貢献を認識するとともに、TJAP 2021-2025の下でTCSと継続して協力していくことを歓迎した。
17. 三大臣は、2023年10月31日～11月1日に、中国の中国環境科学研究院（CRAES）、日本の国立環境研究所（NIES）及び韓国の国立環境科学院（NIER）の間で、第20回日中韓三カ国環境研究機関長会合（TPM）が東京で開催されたことを歓迎し、TEMMの枠組の中で、政策協力のための科学的なリファレンスを提供して、三国間の研究協力をさらに強化するよう奨励した。

地域的及び地球規模の主な環境課題に係る協力の推進

<環境危機への対応と課題>

18. 三大臣は、我々の惑星が気候変動、生物多様性の損失及び汚染という世界的危機を含む前例のない課題に直面していることを認識した。
19. 三大臣はまた、世界が共同して、景気減速、食料・エネルギーを含む商品価格の高騰と過度の変動、新型コロナウイルスの感染拡大を含む複数の課題からの回復に取り組むとともに、SDGsの達成のため努力していることを認識した。
20. 三大臣は、グリーンリカバリーと持続可能で包摂的な開発を促すために、それぞれの国状に照らして、気候変動、生物多様性の損失、環境汚染への対策を強化し、グリーンな低炭素開発／ネットゼロ経済・社会／カーボンフリー社会への転換を加速し、人類と自然の調和を促進し、地球環境ガバナンスを改善する努力を追求するとの約束を再確認した。

<生物多様性>

21. 三大臣は、2022年12月の生物多様性条約 第15回締約国会議 (CBD/ COP15) における、歴史的なKMGBFの採択を強く歓迎した。
22. 三大臣は、生物多様性の損失を止め、反転させるという2030年ミッションと、自然と共生するという2050年ビジョンを達成するために、KMGBFの全てのゴール及びターゲットの迅速、完全かつ効果的な実施と緊急の行動をとることについて決意を示した。
23. 三大臣はまた、KMGBFとその目標及びターゲットに沿って、生物多様性国家戦略及び行動計画 (NBSAPs) を改定、更新及び提出する決意を示した。
24. 三大臣は、IPBESの侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書の政策決定者向け要約の主要な結果を歓迎した。三大臣は、KMGBFに沿

って、同報告書に例として挙げられているものを含む侵略的外来種が、自然、自然の寄与、良質な生活に及ぼす負の影響に対処するために協力を強化する決意を示した。

<気候変動>

25. 三大臣は、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の目的を追求するに当たり、パリ協定及び世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏 2 度高い水準を十分に下回るものに抑えること、並びに世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏 1.5 度高い水準までのものに制限するための取組を追求するというパリ協定の気温目標の完全かつ効果的な実施を強化することによって、気候変動に取り組むという三大臣の確固たるコミットメントを再確認した。三大臣は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の貢献及びその第 6 次評価報告書（AR6）を歓迎した。
26. 三大臣は、緩和と適応の両面における行動を加速させるための国際協力の重要性を強調し、気候変動に対処するための協力を強化する決意を示した。三大臣は、気候変動に関する目標とビジョンを具体的な政策・措置・行動に忠実に反映し、関連する対話や交流に関与し、行動の実施を求めた。
27. 三大臣は、グローバルな気候行動を加速するため、資金、技術移転、能力強化支援の提供及び動員の重要性を認識した。
28. 三大臣は、次期UNFCCC-COP28議長国への全面的な支持を表明した。三大臣は、ドバイにて開催されるCOP28において、第 1 回グローバル・ストックテイク（GST）の完結及び適応に関する世界全体の目標（GGA）フレームワークの採択を含め、成功裏に成果を収められるよう貢献する。パリ協定の目的と長期目標の達成に向けた全体の進捗状況を評価し、緩和、適応、実施手段及び支援に係る気候行動の強化を推進するため、今回のGSTが極めて重要であることを強調した。三大臣は、パリ協定の関連規定に従い、次の国が決定する貢献（NDC）を2025年に提出するよう奨励された。

29. 三大臣は、遅くとも2024年12月31日までに、最初の隔年透明性報告書を適時に提出すべく、必要な準備を行う決意を示した。

<プラスチック汚染>

30. 三大臣は、2024年末までにその作業を完了させるという野心を持って、海洋環境を含むプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた政府間交渉委員会（INC）において建設的な役割を果たす決意を示した。三大臣は、2024年に韓国が開催するINC第5回会合において、プラスチック汚染に関するINCの作業が成功裏に完了することに期待した。
31. 三大臣は、プラスチックのライフサイクル全体の管理を強化することの重要性を認識し、三カ国が採用しているプラスチック汚染と闘う既存の措置を歓迎した。
32. 三大臣はまた、これらの措置をそれぞれの国状に基づいて強化し、プラスチック汚染と闘うための地域的及び世界的な行動を促進するための交流と協力の強化を行う意思があることを表明した。
33. 三大臣は、セミナーやその他の活動等を通じて、三カ国間の海洋ごみに関する政策及び情報交換の継続と強化を奨励した。三大臣は、海洋環境を含むプラスチック汚染に関する科学的、技術的知見、特にモニタリングの方法論を強化し、利用可能な科学的データやその他の関連データと情報を共有することの重要性を認識した。

<地域大気環境>

34. 三大臣は、東アジアの大気質改善に貢献する東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）及び北東アジアクリーン・エア・パートナー

シップ（NEACAP）の協力活動の進展に留意した。三大臣は、黄砂へ対処するためにモンゴルの機関との協力を強化するよう三カ国に奨励した。

<三カ国間協力>

35. 三大臣は、「3+X」協力の成果に留意した。三大臣は、国連持続可能な開発のための2030アジェンダの加速的实施を支援するため、気候変動及び海洋環境保護等の分野における「3+X」協力の可能性を引き続き模索する意思を示した。三大臣は、多国間主義へのコミットメントを再確認し、UNFCCC-COP28や2024年のG20関連会合を含む今後の地域及び世界の主要な環境会議において、三カ国の緊密な協力を促進することに意欲を示した。

TEMM25と今後のイベント

36. 三大臣は、TEMM25を2024年に韓国で開催することを決定した。開催日、開催場所は主催国が提案し、その後中国と日本が確認する。

おわりに

37. 三大臣は、TEMM24が実りある成果を収めたことに満足の意を表した。韓和真長官と黄潤秋部長は、伊藤信太郎大臣及び日本国政府、並びに名古屋市及び愛知県に対して、会議のホストと全ての参加者への手厚いおもてなしに深い感謝の意を表した。

2023年11月4日愛知県名古屋市にて

伊藤信太郎
日本国 環境大臣

韓和真
大韓民国 環境部長官

黄潤秋
中華人民共和国 生態環境部長